

令和 5 年度学群入学生（春学期）
アンケート調査結果
（令和 3 年度～令和 5 年度）

教学マネジメント室教学 IR 部門

2023/6/20

Section 1

調査の概要

目的、調査方法

- 目的

本学の学士課程教育に対する入学者の期待や志望動機を把握すること等を目的として、令和3年度から学群入学生に対するアンケート調査を実施している。

- 調査方法

令和4年度まではTWINSアンケート機能を用いてきたが、令和5年度はmanabaアンケート機能（記名式）を用いたWEB回答方式とし、4月の入学生オリエンテーションや、TWINS掲示板で協力を依頼した。設問内容は、平成20年度から実施している大学院入学生アンケートの設問項目を参考にしつつ、志望動機や入学後の学修に対する意欲等を聞く内容としている。また、入学時点と卒業時点の比較ができるよう、学群卒業生アンケートの項目と対応を意識した。令和5年度は、高校生だった時の経験、目指す最終学歴、大学生活を送るにあたっての経済的な不安について聞く設問を追加した。

- 実施体制

本年度は、調査票作成および実査は教育推進部教育機構支援課が行い、設問の検討・集計・報告を教学マネジメント室教学IR部門が担当した。

回答率

アンケートの対象者数・回答者数・回答率は下表のとおりである。

令和5年度の回答率は87.5%であり、令和4年度以前よりも高い回答率となった。

調査実施年度	対象者数	回答者数	回答率
令和3年度実施（1回目）	2,247名	1,322名	58.8%
令和4年度実施（2回目）	2,252名	1,391名	61.8%
令和5年度実施（3回目）	2,255名	1,972名	87.5%

全体の傾向

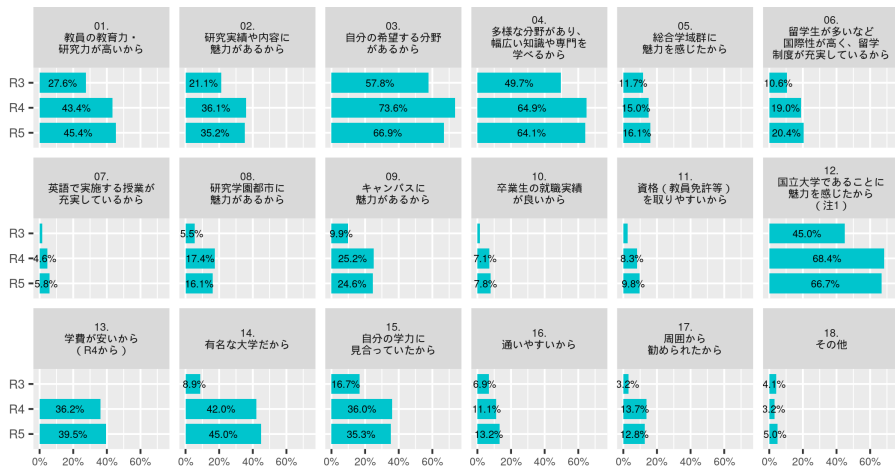
- 本学の志望理由は、「自分の希望する分野があるから」が 66.9%で最も多く、「国立大学であることに魅力を感じたから」(66.7%)、「多様な分野があり、幅広い知識や専門を学べるから」(64.1%)が続いた (p.8)。
- 大学生活における重要度を聞く設問において「非常に重要」の割合が特に高かったのは、「学内の生活環境」(68.7%)、「学生食堂、書籍部などの学生の厚生環境」(63.9%)、「研究室および研究内容に関する情報の提供」(60.2%)であった (p.11-14)。
- 高校生だった時の経験については、大学 IR コンソーシアムが行った「一年生調査 2021 年度」(57 大学参加)でも高校 3 年生時の経験を同じ文言で聞いている。この調査と比較すると、本学学生は「授業中に質問した」以外のすべての項目(「自分の意見を論理的に主張した」等)において「頻繁にした」と回答する割合が高かった (p.17)。
- 目指す最終学歴については、学士が 43.0%、修士が 46.0%、博士が 13.9%であった (p.18)。
- 大学生活を送るにあたって経済的な不安があると回答した学生は 16.6%であった (p.18)。

Section 2

設問別調査結果

志望理由

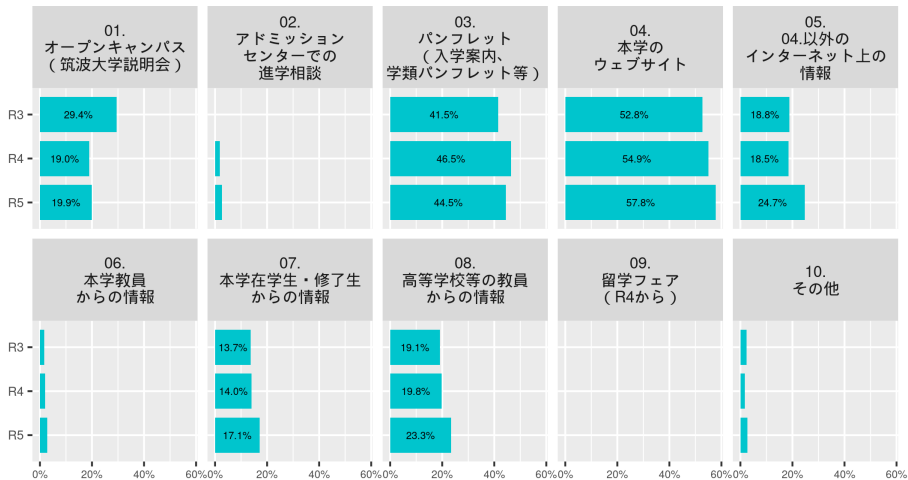
本学を希望した理由としてあてはまる項目
(複数選択可。R3は3つまで、R4以降は当てはまるもの全て)



注1：R3は「国立大学だから」
注2：3%以下は割合の表示を省略

志望決定に役立った情報源

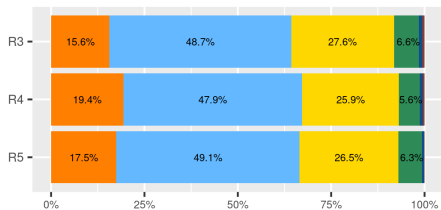
本学への志望を決める上で最も役に立った情報源
(2つまで選択可)



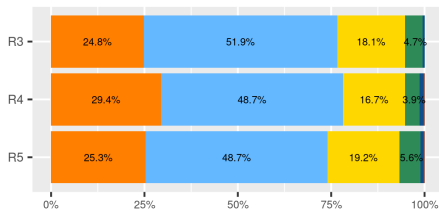
注：3%以下は割合の表示を省略

入学までの情報提供等についての満足度

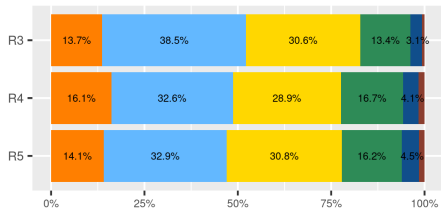
志望決定のための本学からの情報提供



大学入学試験の実施方法・内容等の情報提供



合格後の手続きや学生宿舍入居等についての本学からの支援

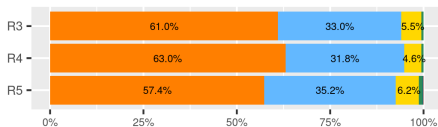


■ 非常に満足
 ■ 満足
 ■ やや満足
 ■ やや不満
 ■ 不満
 ■ 非常に不満

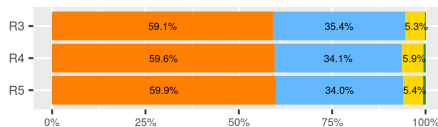
注：3%以下は割合の表示を省略

大学生活における重要度：学修・研究環境について

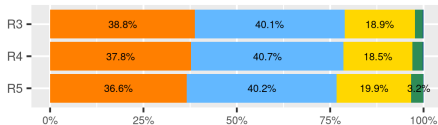
自分自身で学修・研究できる環境



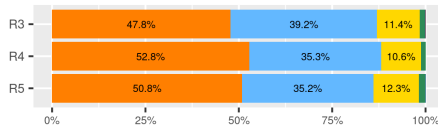
教育施設・設備・機器等



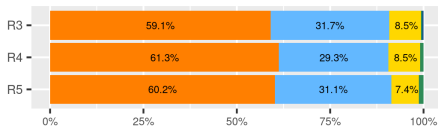
授業外での学修支援



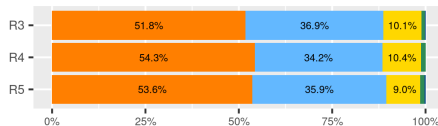
研究テーマ選択の自由度



研究室および研究内容に関する情報の提供



研究室で行うゼミや研究

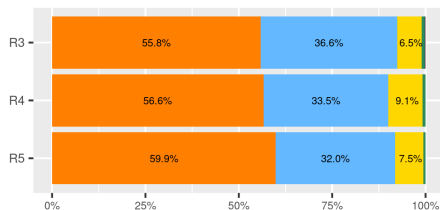


■ 非常に重要
 ■ 重要
 ■ やや重要
 ■ あまり重要ではない
 ■ 重要ではない
 ■ 全く重要ではない

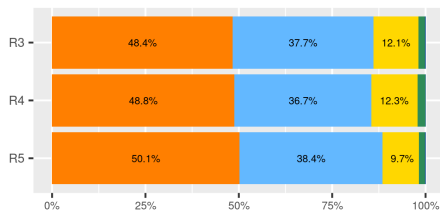
注：3%以下は割合の表示を省略

大学生活における重要度：教職員について

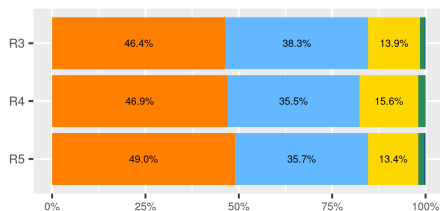
教員の教育力



教員の研究力



事務職員による支援

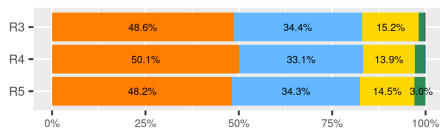


■ 非常に重要
 ■ 重要
 ■ やや重要
 ■ あまり重要ではない
 ■ 重要ではない
 ■ 全く重要ではない

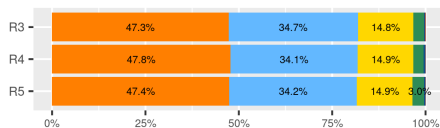
注：3%以下は割合の表示を省略

大学生活における重要度：福利・厚生について

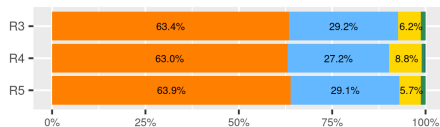
学生が利用できる医療施設（保健管理センター）



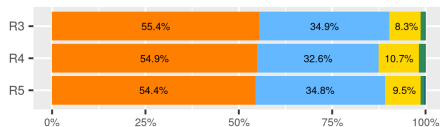
学生相談、セクハラ相談など相談できる環境



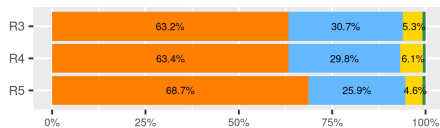
学生食堂、書籍部などの学生の厚生環境



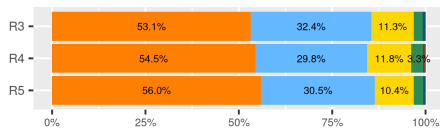
本学からの大学生活に対する支援



学内の生活環境



本学による就職支援

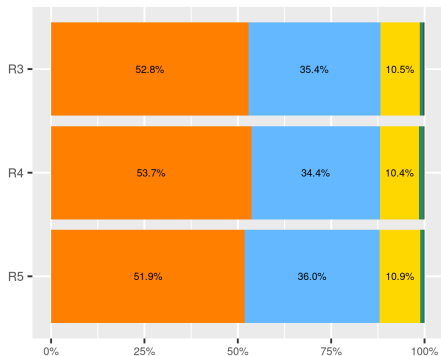


■ 非常に重要
 ■ 重要
 ■ やや重要
 ■ あまり重要ではない
 ■ 重要ではない
 ■ 全く重要ではない

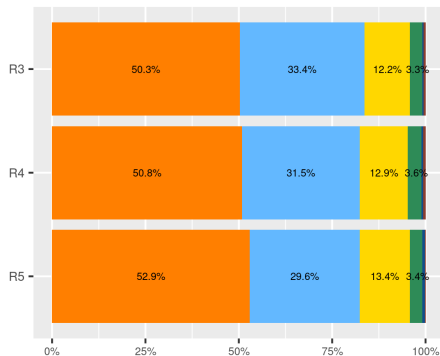
注：3%以下は割合の表示を省略

大学生活における重要度：大学全体について

学生の意向を大学教育に反映させるシステム



学生に対する奨学金、授業料免除等の経済的支援



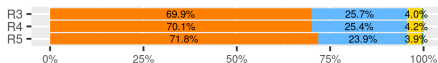
■ 非常に重要
 ■ 重要
 ■ やや重要
 ■ あまり重要ではない
 ■ 重要ではない
 ■ 全く重要ではない

注：3%以下は割合の表示を省略

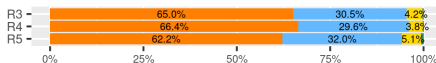
汎用コンピテンスを卒業までに身につける必要性

以下の項目を卒業までに身につける必要性をどの程度感じているか

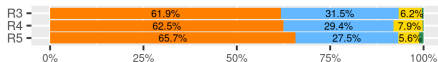
コミュニケーション能力



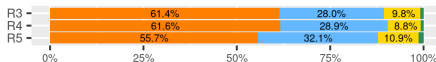
批判的・創造的思考力



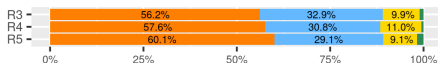
データ・情報リテラシー



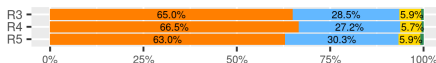
広い視野と国際性



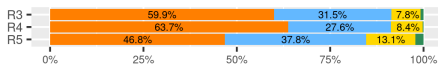
心身の健康と人間性・倫理性



協働性・主体性・自律性



専門性

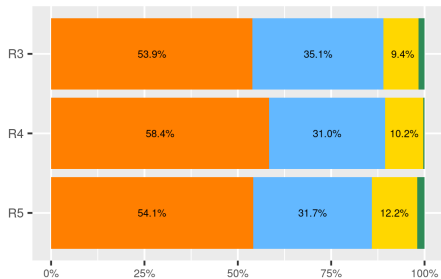


- とても必要性を感じている (R4までは「とても身につけたい」)
- 必要性を感じている (R4までは「身につけたい」)
- どちらかといえば必要性を感じている (R4までは「どちらかといえば身につけたい」)
- どちらかといえば必要性を感じていない・必要性を感じていない・全く必要性を感じていない

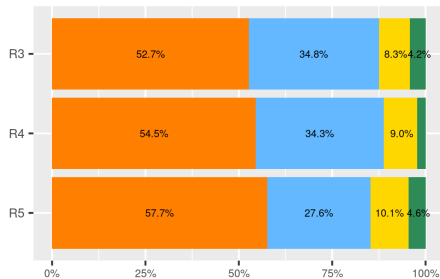
注：3%以下は割合の表示を省略

英語・日本語を身につける必要性

英語によるコミュニケーション能力を身につける必要性
(英語を母語としない者を対象)



日本語によるコミュニケーション能力を身につける必要性
(日本語を母語としない者を対象)



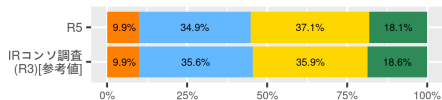
- とても必要性を感じている (R4までは「とても身につけたい」)
- 必要性を感じている (R4までは「身につけたい」)
- どちらかといえば必要性を感じている (R4までは「どちらかといえば身につけたい」)
- どちらかといえば必要性を感じていない・必要性を感じていない・全く必要性を感じていない

注：3%以下は割合の表示を省略

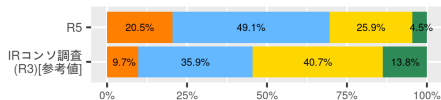
高校生だった時の経験（R5 から）

高校生だった3年間のうち、次のことがらをどの程度したか

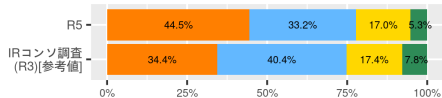
授業中に質問した



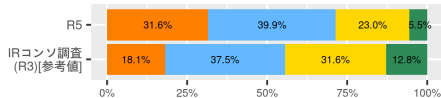
自分の意見を論理的に主張した



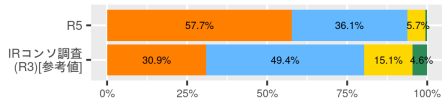
授業の予習や復習、宿題をした



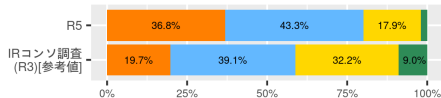
授業以外に興味のあることを自分で勉強した



自分の失敗から学んだ



困難なことにあえて挑戦した

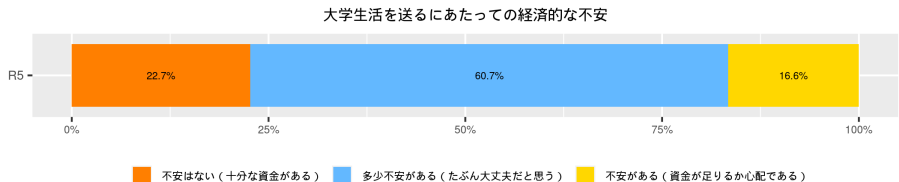
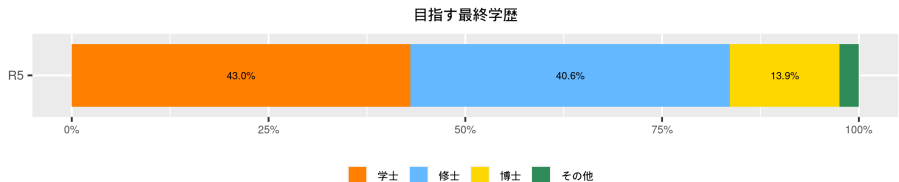


■ 頻繁にした
 ■ 時々した
 ■ あまりしなかった
 ■ まったくしなかった

注1：IRコンソ調査とは、一般社団法人大学IRコンソーシアムの会員校57大学が2021年後期（秋学期）期間中に1年生を対象に行った調査。回答件数は34,712件。本学入学生アンケートでは「高校生だった3年間」の経験を聞いたのに対し、IRコンソ調査では「高校3年生だった時」の経験を聞いている点異なる。値は、大学IRコンソーシアム学生調査のウェブサイト(<https://irnw.jp/investigate>)の「2021年度集計結果 基礎集計」から取得(2023/6/15アクセス)。

注2：3%以下は割合の表示を省略

目指す最終学歴， 経済的な不安（R5 から）



令和 5 年度学群入学生（秋学期）
アンケート調査結果
（令和 4～5 年度）

教学マネジメント室教学 IR 部門

2023/11/21

Section 1

調査の概要

目的、調査方法

- 目的
本学の学士課程教育に対する入学者の期待や志望動機を把握すること等を目的として、令和4年度より、秋学期入学生に対しても、春学期入学生と同様にアンケート調査を実施している。
- 調査方法
令和4年度は TWINS アンケート機能を用いたが、令和5年度は manaba アンケート機能（記名式）を用いた WEB 回答方式とし、入学生オリエンテーションや、manaba コースニュースで協力を依頼した。令和5年度は、高校生だった時の経験、目指す最終学歴、大学生活を送るにあたっての経済的な不安について聞く設問を追加した。
- 実施体制
本年度は、調査票作成および実査は教育推進部教育機構支援課が行い、設問の検討・集計・報告を教学マネジメント室教学 IR 部門が担当した。

回答率

アンケートの対象者数・回答者数・回答率は下表のとおりである。

令和5年度の回答率は84.6%であり、令和4年度よりも高い回答率となった。

調査実施年度	対象者数	回答者数	回答率
令和4年度実施（1回目）	51人	23人	45.1%
令和5年度実施（2回目）	52人	44人	84.6%

全体の傾向

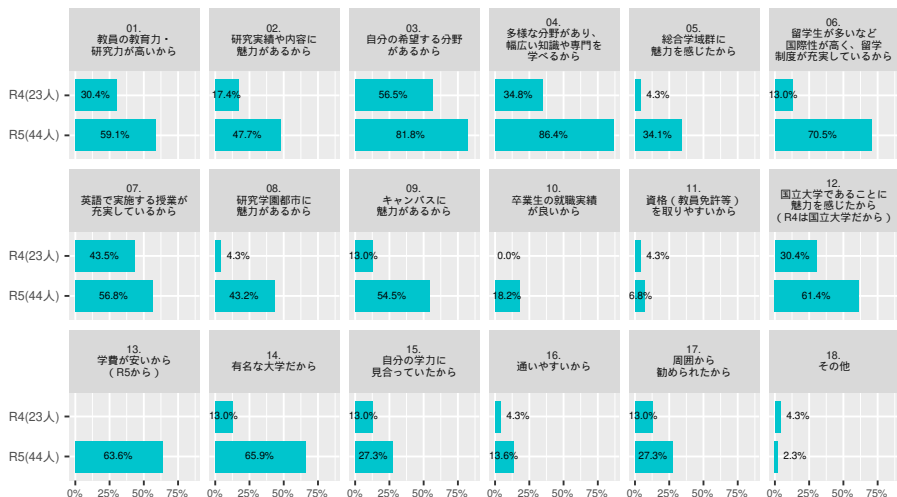
- 志望理由は、「多様な分野があり、幅広い知識や専門を学べるから」が 86.4%で最も多く、「自分の希望する分野があるから」(81.8%)、「留学生が多いなど国際性が高く、留学制度が充実しているから」(70.5%)が続いた (p.8)。
- 大学生活における重要度を聞く設問において「非常に重要」の割合が特に高かったのは、「教員の教育力」、「本学からの学生生活に対する支援」、「本学による就職支援」、「学生に対する奨学金、授業料免除等の経済的支援」であった (いずれも 70.5%)(p.11-14)。
- 目指す最終学歴については、学士が 34.1%、修士が 36.4%、博士が 25.0%であった (p.18)。(参考：R5 春学期入学生調査では、学士が 43.0%、修士が 46.0%、博士が 13.9%であった。)
- 大学生活を送るにあたって経済的な不安があると回答した学生は 19.0%であった (p.18)。

Section 2

設問別調査結果

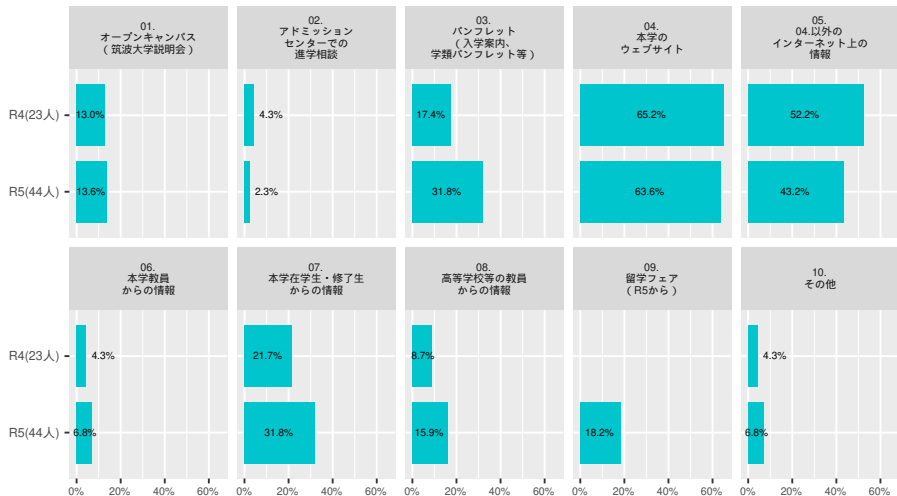
志望理由

本学を希望した理由としてあてはまる項目
(複数選択可。R4は3つまで、R5は当てはまるもの全て)



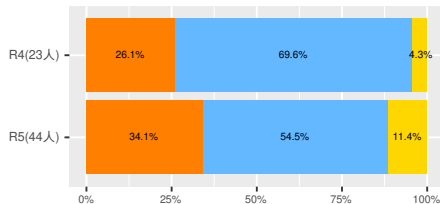
志望決定に役立った情報源

本学への志望を決める上で最も役に立った情報源
(2つまで選択可)

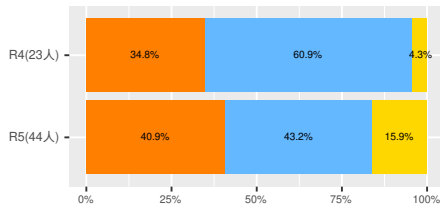


入学までの情報提供等についての満足度

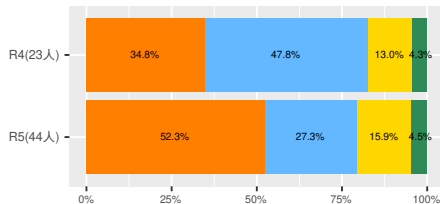
志望決定のための本学からの情報提供



大学入学試験の実施方法・内容等の情報提供



合格後の手続きや学生宿舎入居等についての本学からの支援

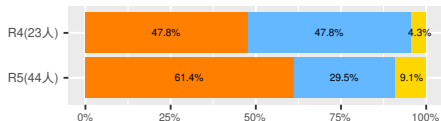


■ 非常に満足
 ■ 満足
 ■ やや満足
 ■ やや不満
 ■ 不満
 ■ 非常に不満

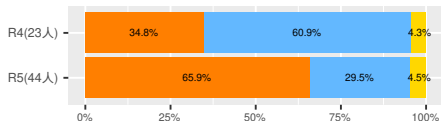
注：3%以下は割合の表示を省略

大学生活における重要度：学修・研究環境について

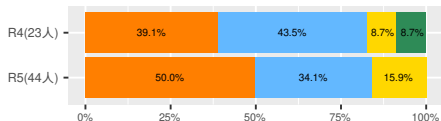
自分自身で学修・研究できる環境



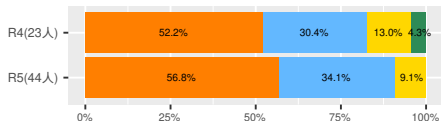
教育施設・設備・機器等



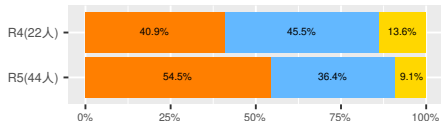
授業外での学修支援



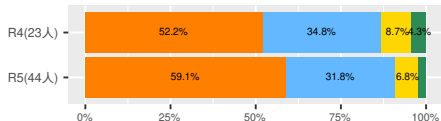
研究テーマ選択の自由度



研究室および研究内容に関する情報の提供



研究室で行うゼミや研究

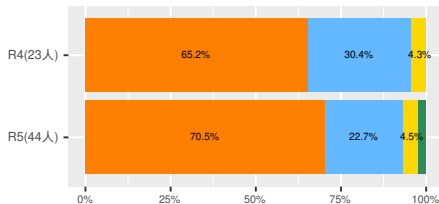


■ 非常に重要
 ■ 重要
 ■ やや重要
 ■ あまり重要ではない
 ■ 重要ではない
 ■ 全く重要ではない

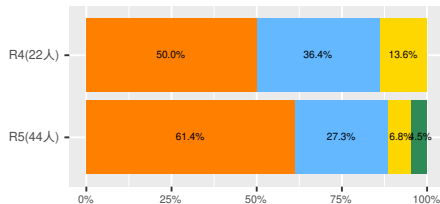
注：3%以下は割合の表示を省略

大学生活における重要度：教職員について

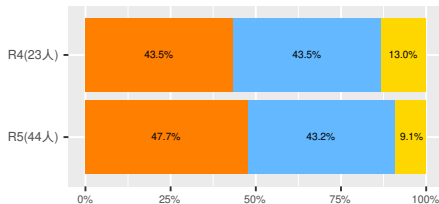
教員の教育力



教員の研究力



事務職員による支援

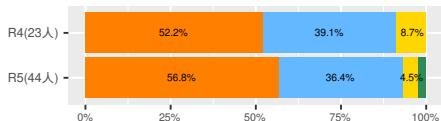


■ 非常に重要
 ■ 重要
 ■ やや重要
 ■ あまり重要ではない
 ■ 重要ではない
 ■ 全く重要ではない

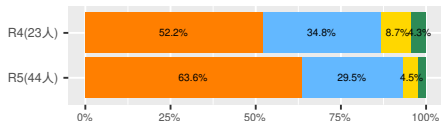
注：3%以下は割合の表示を省略

大学生活における重要度：福利・厚生について

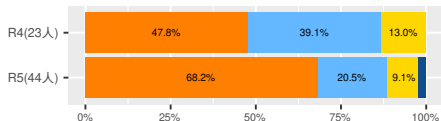
学生が利用できる医療施設（保健管理センター）



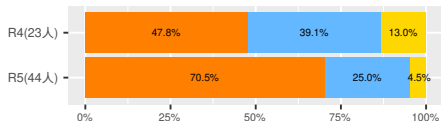
学生相談、セクハラ相談など相談できる環境



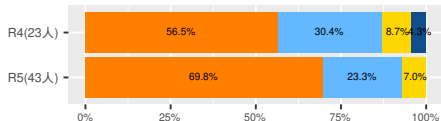
学生食堂、書籍部などの学生の厚生環境



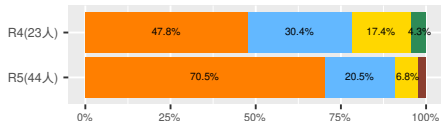
本学からの大学生活に対する支援



学内の生活環境



本学による就職支援

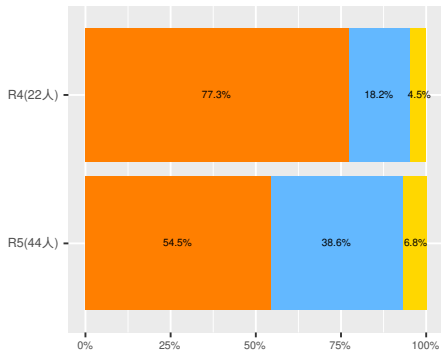


■ 非常に重要
 ■ 重要
 ■ やや重要
 ■ あまり重要ではない
 ■ 重要ではない
 ■ 全く重要ではない

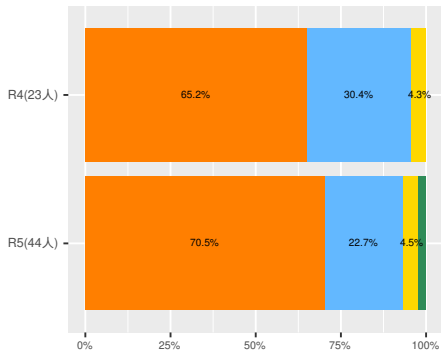
注：3%以下は割合の表示を省略

大学生活における重要度：大学全体について

学生の意向を大学教育に反映させるシステム



学生に対する奨学金、授業料免除等の経済的支援



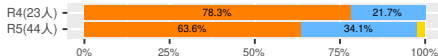
■ 非常に重要
 ■ 重要
 ■ やや重要
 ■ あまり重要ではない
 ■ 重要ではない
 ■ 全く重要ではない

注：3%以下は割合の表示を省略

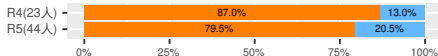
汎用コンピテンスを卒業までに身につける必要性

以下の項目を卒業までに身につける必要性をどの程度感じているか

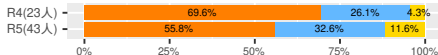
コミュニケーション能力



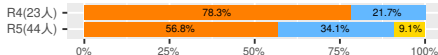
批判的・創造的思考力



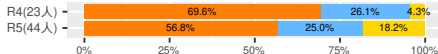
データ・情報リテラシー



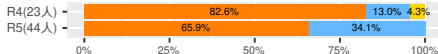
広い視野と国際性



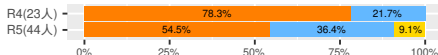
心身の健康と人間性・倫理性



協働性・主体性・自律性



専門性

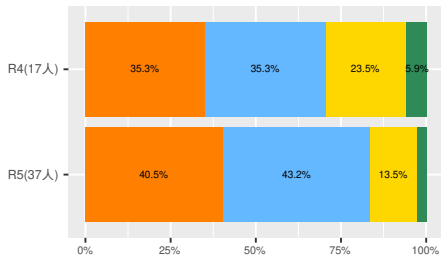


- とても必要性を感じている (R4までは「とても身につけたい」)
- 必要性を感じている (R4までは「身につけたい」)
- どちらかといえば必要性を感じている (R4までは「どちらかといえば身につけたい」)
- どちらかといえば必要性を感じていない・必要性を感じていない・全く必要性を感じていない

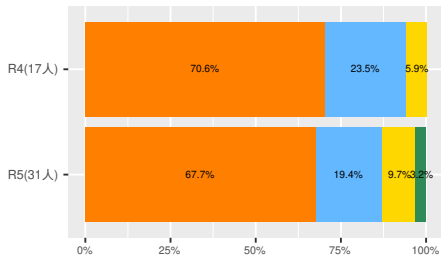
注：3%以下は割合の表示を省略

英語・日本語を身につける必要性

英語によるコミュニケーション能力を身につける必要性
(英語を母語としない者を対象)



日本語によるコミュニケーション能力を身につける必要性
(日本語を母語としない者を対象)



- とても必要性を感じている (R4までは「とても身につけたい」)
- 必要性を感じている (R4までは「身につけたい」)
- どちらかといえば必要性を感じている (R4までは「どちらかといえば身につけたい」)
- どちらかといえば必要性を感じていない・必要性を感じていない・全く必要性を感じていない

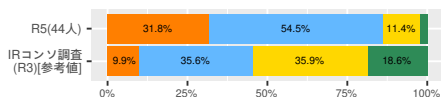
注1：3%以下は割合の表示を省略

注2：日本語によるコミュニケーション能力を身につける必要性については、日本人学生等で回答する者が見られたため、留学生の回答に絞った。

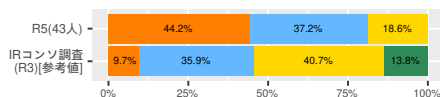
高校生だった時の経験（R5から）

高校生だった3年間のうち、次のことがらをどの程度したか

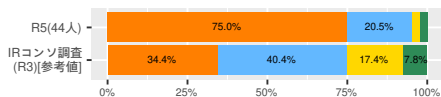
授業中に質問した



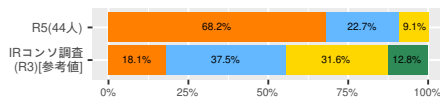
自分の意見を論理的に主張した



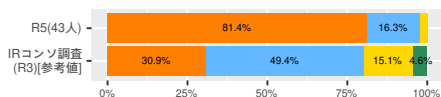
授業の予習や復習、宿題をした



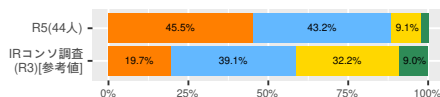
授業以外に興味のあることを自分で勉強した



自分の失敗から学んだ



困難なことにあえて挑戦した



頻繁にした 時々した あまりしなかった まったくしなかった

注1：IRコンソ調査とは、一般社団法人大学IRコンソーシアムの会員校57大学が2021年後期（秋学期）期間中に1年生を対象に行った調査。回答件数は34,712件。本学入学生アンケートでは「高校生だった3年間」の経験を聞いたのに対し、IRコンソ調査では「高校3年生だった時」の経験を聞いている点が異なる。値は、大学IRコンソーシアム学生調査のウェブサイト(<https://irnw.jp/investigate>)の「2021年度集計結果 基礎集計」から取得(2023/6/15アクセス)。

注2：3%以下は割合の表示を省略

目指す最終学歴，経済的な不安（R5 から）

